

第11回 MBI(マルチメディアを基礎にした教育)発表会プログラム

日 時：平成21年2月19日(金) 13:00~17:50

場 所：101講義室

司 会：石井 文由・和田 義親

1 演題20分 発表時間15分 質疑5分(入換時間含む)

13:00~13:10

開会の辞：阿刀田 英子(薬学教育研究センター)

1. 13:10~13:30

テーマ：**模擬症例電子カルテを用いた疾病・薬物治療教育**

越前 宏俊(薬物治療学)

要 旨：文部科学省医療人GP助成事業により模擬症例電子カルテシステムを作成しました。本システムはNECのMegaOak Rをカスタマイズしたものです。IEブラウザを用いてサーバにアクセスする webベースのシステムです。電子カルテ本体には模擬症例データが入力されています。また、電子カルテの操作アイコンから学内LAN上の医薬品情報データベース(DrugdexR)、医療統計ソフトSPSS、今日の治療の診療プレミアムの12種の電子ブックにリンクできます。本システムは臨場感のある新しい病態と検査、さらには薬物治療の教育ツールを提供します。

2. 13:30~13:50

テーマ：**ティーチング・ポートフォリオによるFDの試み**

石橋 賢一(病態生理学)

要 旨：研究業績は紀要に報告されるが、教育業績は公開されない。そこでティーチング・ポートフォリオを web 公開し、学生教育効果や、教員FD(教育改善)を期待した：質問カード、拡張シラバスに配布資料・講義音声、質問掲示板、病気 wiki、過去問掲示、サイバーキャンパスのレポート受理・講義コンテンツ・OX試験、マイポートの小テスト出席や授業アンケート、グループカレンダー公開とオフィスアワー、補講で症例発表コンテスト

3. 13:50~14:10

テーマ：**KeyMolnetによる分子ネットワーク解析：卒業研究への活用**

佐藤 準一(バイオインフォマティクス)

要 旨：KeyMolnetは生体分子・医薬・疾患情報を網羅的に収集、分子ネットワークを体系化したデータベースである。マイクロアレイデータから分子ネットワークを抽出、標的分子を同定出来る。Molecular dictionaryとしても活用出来る。本学では平成16年度よりKeyMolnetのネットワーク環境を整備した。われわれは学生の自己学習能力向上のためKeyMolnetを卒業研究に導入した。

4. 14:10~14:30

テーマ：**考える薬剤基礎実習をめざして**

製剤試験法グループにおける情報操作やデータ処理の理想と現実

足立 茂(薬学教育研究センター)

石井 文由、緒方 宏泰、下川 健一、高村 彰、向日 良夫、山崎 紀子

要 旨：薬剤基礎実習では、実習内容の理解ならびに考察力を高める目的で学生全員にノートパソコンによるデータ解析を課している。PC環境の普及に伴い、今ではその日のうちに集計結果をホットな状態で、学生個人が考察できる喜ばしい状況が生まれている。反面、学生間のPCに対する習熟度に大きな差があることや、全員で考察をする際、学生の作業状況が同時に把握できないことが問題である。EXCELを使う双方向システムを探している。

5. 14:30~14:50

テーマ：**薬学教育に有用な高機能分子エディター**

植沢 芳広(臨床薬剤学教室)

要 旨：今回紹介する Marvin Applets は、ある意味で ChemDraw/3D をも凌駕する超高機能分子エデ

イターである。非商用教育研究目的での使用は無料であるにも関わらず、その充実した機能は圧巻。入力された2次元化学構造を元に、3D化、最安定配座解析、各種物性予測値の算出、種々pH環境における互変異性体、共鳴構造の表示から分子動力学計算までこなす。さらに、JAVAで動作するためWindows、MacOS等の操作環境を問わない。

<<休憩 14:50~15:10>>

6. 15:10~15:30

テーマ：学生アンケート結果から見た英文サイトとホームページの活用について

林 弘美（英語・英語学）

要旨：本学学生の一部に対して簡単なアンケートを行い、インターネット全般、英文サイト、及びポッドキャストの活用状況を調査した。それを踏まえ、学習支援策の1つとしてブログ型ホームページを活用する試みについて報告する。

7. 15:30~15:50

テーマ：CBT対策として、明薬サイバーキャンパス・×テストの利用

向日 良夫（薬学教育研究センター） 北原 嘉泰

要旨：現4年生の薬学演習に利用できるよう、明薬サイバーキャンパスに各科目10問の×テスト、全300問を登録した。受験した延べ439名の平均正答率は85.2%であったが、難易度の低い問題にもかかわらず、有機、薬理、薬剤、製剤に6割以下の解答が目立った。これからのCBT対策として、この×テストをプレCBTとして利用させ、パソコン画面や問題文の記述になれさせ、ストレスなく解答できるような指導が必要であると思われる。

8. 15:50~16:10

テーマ：授業改善に必要な情報

井上 忠也、杉山 重夫、日野 文男、和田 義親（薬学教育研究センター）

要旨：授業にはカリキュラム上の目標があり、学習者がその目標に向けてどう変化したかを知ることで授業改善の糸口を見つけることができる。したがって、学習者の授業開始前の状態、授業期間中のモチベーションや学習活動、授業終了後の学習結果等を授業設計や講義の段階で把握する必要がある。ここでは基礎物理学の授業を通して把握しうるデータを示し、サイバーキャンパスが持つデータ解析機能を紹介する。

9. 16:10~16:30

テーマ：解剖学教育における書画カメラの利用

深瀬 徹（薬学教育研究センター）

要旨：薬学部では、解剖学の教育に際して人体解剖を実施することはできず、実験動物の解剖を行うのが一般的である。しかし、その際のデモンストレーション等において、多人数の学生に小型の動物の解剖を供覧することは困難である。今回、書画カメラを用いてラットの解剖を提示したところ、大教室においても良好にその様子をスクリーン上に写し出すことが可能であり、教育上の有用性が高いと考えられた。

<<休憩 16:30~16:50>>

10. 16:50~17:50

学習カルテシステム講習会

授業改善には教育活動全体の状況を把握する必要があります。授業に関連して行われるアンケート、テスト、レポート評価などは重要なデータの一部ですが、その統計処理には大きな負担が伴います。この度、収集したデータをアップロードするだけで基本的な統計結果を可視化して提供する機能を開発しました。また、学習に問題がある学生の学習状況を把握し、カウンセリング資料として提供する機能を追加しました。

(1) 科目全体の学習状況を把握する機能

(2) 個々の学生の学習状況を把握する機能